

評価委員会総合評価

研究課題名：台風等に伴う強風現象に対する地域特性に関する研究

評価委員

委員長：小泉 耕

委員：石井雅男、永戸久喜、牛田信吾、山中吾郎、山田雄二、瀬古 弘、
清野直子、須田一人、干場充之、吉田康弘、加藤輝之、川添安之

評価年月日：令和4年1月26日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否 可 否
(2) 修正の必要の有無 修正の必要あり 修正の必要なし

2. 総合所見

本研究は、管区内の各官署における実況監視・予測等に関する業務改善と人材育成の両面を睨んだ重要な課題であり、当所の業務貢献という観点でも地方共同研究に相応しい課題と考える。また、強風の地域特性という地方官署の防災業務、特に解説業務で重要となる要素に注目した研究である点も評価できる。現象解析を中心としながらも機械学習の活用も取り入れた意欲的な取組であり、風力発電をはじめとした産業利用など社会的なインパクトも期待される。

一方、研究内容の範囲が広すぎることや機械学習の具体的な利用方法の検討が十分でない印象があるため、研究を実施する前に以下の点について整理が必要と思われる。

・研究内容が広範囲のため、まずは強風をもたらす現象それぞれにおいて何が課題なのかを明確にし、研究内容の絞り込みを行った上で、より明確な目的・目標を設定することが不可欠である。

・研究計画や方法、研究フロー図に、たとえば「強風事例の選択」などの調査項目や線表の横棒で表現している工程に、気象研・東京管区にどう関わり合うのか、役割分担が見えないので、その点を補足していただきたい。

・本研究を効率的に進めるためには、今後指導的な立場に立てるポテンシャルのある職員を中心に共同研究への参加者を絞り込み、地方気象台のサポートは管区が行い、管区に対する技術的な助言を気象研究所が行う体制とすべきである。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について留意して進めて欲しい。

・気象研からの指導や助言が効率的・効果的に行えるように、管区内・地台間での情報共有を密にする等、管区からの指導や取りまとめを適切に行って頂くことが重要と考える。

・機械学習を用いた解析は今後進展が期待される分野であり、まだ発展途上の手法であり、具体的にどのように解析を進めていくかについては、気象研の研究者と現場の職員の間で十分に意思疎通を図りながら進めて欲しい。